



Handwritten title slip in black ink on aged paper, oriented vertically. The characters are in cursive and appear to read "新編 日本書紀" (Shinpen Nihon Shoki).



White rectangular label with red border containing the number "5" above the year "1912".





主申十二月七日即真
折よりて暮入揺と

ゆめつとき

芭蕉



活ふまゝし乃知者の名

彫棠

月よ〜ねはまり者より〜て

晋子

相識のよき小枝を

萱山

谷月の乃きけしめんを肩

桃屋

お代りこそ秋を其〜き

銀杏

因〜成きぬがわらぬ植の名

棠

肩〜や〜な〜子〜駕〜籠〜か〜ま〜り〜祝

晋

是とと〜草種ハ外て芥の葉

杏

葉を考てと〜江泊舟の字察

蕙

下張の反故又〜き〜ま〜り〜て

山

つ〜れ〜猫の才を〜を〜ま〜り

隣

正〜や〜襦〜よ〜き〜一〜迫〜娘〜の〜名

棠

一〜硯法〜度〜と〜こ〜い〜や〜せ〜り〜陰〜

晋

夜の雨窓此〜〜あ〜て〜る〜く〜さま〜ん

蕙

三寸の強を〜き〜る〜を

隣

ま〜り〜嚏を〜し〜中〜月乃月

晋

死んときくと〜ふ

棠

急なる和書と友を

杏

高み〜り〜を〜場〜る

山

山寺の口〜海〜法ハ志何〜し

萱

秋ありか〜る〜合歡の〜名

晋

かけむ〜か〜横〜屋〜の〜床〜の〜中〜海〜

山

ふ〜る〜ぬ〜舟〜り〜一〜層〜の〜汐〜

杏

字色と曹洞宗の定〜り〜

隣

焦以... 乃... 寸... 流... 松... 長... 老... 身... 乃...
焦以... 乃... 寸... 流... 松... 長... 老... 身... 乃...
焦以... 乃... 寸... 流... 松... 長... 老... 身... 乃...

崇 晋 蕉 棠 山 晋 杏 蕉 崇 山 障

国五月廿二日

落柿舎乱吟

柳小柳片... 乃川... 村... 塚... 月... 小... 上... 龜... 大...
柳小柳片... 乃川... 村... 塚... 月... 小... 上... 龜... 大...
柳小柳片... 乃川... 村... 塚... 月... 小... 上... 龜... 大...

芭蕉 酒堂 去来 支考 文州 素半 堂 蕉 来 考

作桶の水汲かゝる一房表の先
 便を初て碓徳利派や
 隆おしとけさるゝ西の志さし
 想しくやあま志るる 洗は
 赤籠を焼と籠とあ方い
 馬さるゝくは櫻木の表
 月さるゝ小ま門を出川入
 栄あらす 四人の老長腰板
 湯さるゝ眠さるゝ移志の借
 彩茶のかさのあさるゝ
 井口の涌とそんと結あして
 運と人のむぬ日かゝる
 花さるゝの遍庭さるゝ海さるゝ海
 花さるゝ志んと海の田赤
 道徳の細と籠のあさるゝ
 障のぬをアプー吹し
 葬礼の初て経よむ道分坊
 川花と川流て花見さるゝ
 岩さるゝのせさるゝ田上乃 唐
 正月をいよやまは淋し古目
 経流さるゝあさるゝ代
 咲花の片さるゝ花さるゝ不
 彼星をわけてお原さるゝやく

牛 堂 州 末 牛 堂 蕉 州 堂 蕉 州 末 牛 堂 蕉 州 末 牛 堂 蕉 州 末 牛 堂 蕉 州 末

ふ粉をぬれしとろ地くらひ魚
後者ありやの衣乃 意

考
車

翁以御の比平法六しる

糸のこし

尺せしやを子孫をちまらぬの細
そなふをゆきあらん夕顔

惟然
翁

翁の言はえくの言はるる

木岡
翁

霜字に足跡麻に故屋を思せし
古人かやの衣乃本か

如引
翁

ちまへして尺せえやこの田植方
かまひさるん不破乃きまれ

已百
翁

春風や麦の中は水はる
しけりあいさすま乃糸白

木守
翁

葦垣ありむしらの路や夕涼
そよひりあちさい乃 意

曲和年
翁

んせちやな 菰の皮 ちきり 杉乃 桐
ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり
惟然

つれく ちきり 海り 野から 杉
杉乃 乃と ちきり 西の 穂
穂

はるや ちきり ちきり 杉乃 三
ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり
その 女

奥 唐と ちきり 冬 木 の 栲 皮
奥 唐と ちきり 冬 木 の 栲 皮
奥 唐と ちきり 冬 木 の 栲 皮
奥 唐と ちきり 冬 木 の 栲 皮
奥 唐と ちきり 冬 木 の 栲 皮

ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり
ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり
北 字 の 標
許 六

ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり
ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり
七 夕 の 八 日 各 物 の ちきり ちきり ちきり
ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり
ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり

ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり
ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり
田 植 と ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり
ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり
ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり

育出—よう—二葉—下—柿の実
名の麩乃のり—卵のむ

餓別

新麦ハワさ—は—めぬ—運か
山店

す—お飯屋乃—え—る—し
全

る付の—こ—淋—ま—救の野—
全

四五千石の松乃—を—
山

す—く—醫者—を—引—つ—る—善の月
全

命—は—の—比—の—寺—乃—善—法—
全

ほ—
店

道—を—ふ—
店

隠—の—
店

丹波—
店

そ—の—
店

高—
店

ま—
店

神—
店

き—
店

奥—
店

あ—
店

たの口のくき屋の伽よつ川くると

つらつらくや湯漬くあつん

いそがしくお服ををあらうらむ

月つととあうきく敷うらむし

かすいしし櫛梅く日くくれそ

伝のあ化とほくむ糸くそ

いあくと向扱あせは保うき屋

そくろくま乃ともわん竹板

羽二きとの赤くまうくく物あのみ

けくいけうくおをすまはらむ

雑とましくぬ長まされくおの丹

白くはけれて山くまの葉

いさくくんかあは秋のたけり

くれくくくのみむのくく

ちあうをく浦せのうがく敷とち

物くせたまやとささる天目

葉のあくくらハおををうきそ

あくれあむとあまのくち

店

店

店

店

店

店

店

店

店

店

店

店

店

店

店

店

店

店

帷子ハ日くくまきほく一照のあ

板を年くと稲のまき

吏部

九七

蘇芳の穂よりのうさかひを
 木口の管たるくさる 舟何か扱
 二りいさしーのくすき表板
 空さふさふのりをかき立を
 石丁たしれん 空板ち乃種
 子細子と新なふとまかんを
 よしうしととまふぬ小うを
 肌さむき隣の船系の上を
 秋入とまかをぬれりさ
 塩漬よりけしきあるをぬれり
 持をーの彩初月とさひくさ
 古くくあひのくさねきりりの
 善く舞す一とまかをぬれり
 小川の口のまき 三月
 竹松の内よりかきむ 飛虎
 馬の糞く 破しりさか
 夕らぬと洗澤 貨をなけして
 ころぬれりさか ぬれり
 腕よりとまかぬれり ぬれり
 竹取しりさかぬれり ぬれり
 菅河まひの文と 廟とる 塩とる
 百里とるまき 舟のまぬく

蘇邦 水 蘇邦 水 蘇邦 水 蘇邦 水 蘇邦 水 蘇邦 水 蘇邦 水 蘇邦 水 蘇邦 水 蘇邦 水 蘇邦 水 蘇邦 水

丸ノ口キ并附合ハ翁貞享

甲子次行ノ内ナリ

江戸と立目

芭蕉野分と句は草鞋のよ
月とぬ糸状酒の乞食

李下翁

自馬巾と拵来

取中来て君見よ不二乃初風

二亦

伴路山田おて芋洗ふと

ソあ白と和ま

岩まじくせん西水あゝ石秋の音
ちせはとこくふ風の破笠

伴山田
雷枝翁

善の咲みかゝり子乃翁
秋と志乃く蝶のふゆをま

口
膝定翁

師の極むしー拾りん 木の葉
すしきじの葉の 葉 四十一
三六 暗山

葉の若乃極葉し 拾りんを名中
古人ヶ極の葉乃あしー
如 葉

口とさひしー極し 稟の葉極
葉の湯し 葉のひし
雅良 葉

けり極能刻 枇杷の葉葉あし
葉しーしーしー 山葉の葉
葉 葉

地盤の本は葉しーかまらぬ葉し
は葉しーしー 古をしーしーはしーしー
葉 葉

葉しーしー日永しー極し 葉しーしー日
葉しーしー葉乃 葉しーしー葉しーしー
葉の中し 葉の葉乃しーしー葉し

はしーしー葉木の葉の 神しーしー
葉しーしー葉を 葉む 葉の葉
葉 葉

葉しーしー葉しーしー葉しーしー
葉しーしー葉しーしー葉しーしー
葉 葉

百合

おとり書紙なる葉の戸中
二下はとぬきぬきのまじり

菫

板の用乃をかくをふく
定き炉に伝お、独梓むき

菫

小僧ふくしそか—こまうらる
初祥の陰まよふ良のほそらる

菫

高の意と多細と指さるけひより
ま可ハ毒—ほまらうねらふ

菫

唐人をばそかけうあおく
庚の年をうね蝶と方を這て

菫

井うつく常宗の香のまじり
そよとくれそほつらふく

菫

本のりくくそみちるか
まぢり池さげゆくそまの

菫

一里人 嗚る 客の志をくをく
暮の工丈 二日とちちる 目をめそ

暮

さうき 秋切て 苦く 夕暮
長巻負て 海安し 入る 藤の隈

暮

倦きり 夕暮 椽のかど 老犬
文段の 里の 砦と 打し 也く

暮

世で 夕暮 ほと 名の花 雀
然と 夕暮 夕暮 の 拍板

暮

自筆

夕暮集

菊の露 夕暮 夕暮 夕暮 夕暮

夕暮

吹揚ら 夕暮 夕暮 夕暮 夕暮

夕暮

かゝる 鴨うつ 夕暮 夕暮 夕暮

夕暮

七耀山を 夕暮 夕暮 夕暮 夕暮

夕暮

所 夕暮 夕暮 の 暮夕 夕暮 夕暮

夕暮

夕暮 夕暮 夕暮 夕暮 夕暮

夕暮

坊主と 夕暮 夕暮 夕暮 夕暮

夕暮

去の 藤つ 夕暮 夕暮 夕暮

夕暮

生藤 夕暮 夕暮 夕暮 夕暮

夕暮

目暮 夕暮 夕暮 夕暮 夕暮

夕暮

蒜からの柵一々を誦す
苔の生る花の御衣よきうり

蒜

画讚 雜

赤人をも今一入乃酒をらん
七言くさる公家及振舞

好頌
七言

川のまはさるく小立の赤糸
柳のこころき去年の相の實

其節

高村の柳をさし柳をさし
酒の幌一入お乃月

文辯
枳凡

秋の山と赤のら乃鳥賣ん
炭竈のりて冬のおら

二亦
小量

里くの麦原のあきね
家のりり節あ反おほひせ

松凡
仙化

胡まらぬ三形をばむるは
念仏のねふ僧いつくす

李下
奉白
弟姪

あさましく車方の奥とさまじく
 歌すや世事ゆるむく 夢のあ
 有明の梨子 否帽子 是くりり
 くらせのふと 夢の足 細り
 ありまじく 宿の木 権のまじく
 後任をサキぬくくちく
 山あうく 乱とのむ 権のまじく
 人京を甲斐の代とり 4と
 法の古家 判の髪を埋まじく
 くらく 一の記をさつるまの戸
 さく 四より車くを 権の法
 孫のまじく 乃く 夢山子 ぬく
 志の川く 破て 権をさく 夢
 殿ちく 祈あさく する 権ゆけ
 ちけく 眉をく 衣く
 嬰子 咲て 情あ 乃く 宿あ 水か
 はあけの 風よ 矢 籠 切る 入
 うく 夢とく 下もの けく 狐るま
 石の戸 権 するの 坊よ 考 長きて
 三代の 口く 川 飛 臨
 永流ハ 令を 之く 松の うせ
 夢の 田 権 夢 居る 願 せん

吸足 あり 芭蕉 筆 文 藤 二 才 松 凡 松 凡 夢 下 仙 化 夢 下 仙 化 夢 下 仙 化

村白ふ石の灯あき

使水

地と水水の沖をぬり

仙化

伴替と系月と朝日の有勢き

不卜

榊よりふと橋造る

李下

伝長の治まる仲や守もん

楊水

居士よりささるかき玉の児

又藤

紅牡丹十里の魚が分て

干春

玉すむ若く出る湯をまき

硬水

岩神を重んじ地系をあらはれ

壬角

笠や三井の法所とて

工部

多むとよふたやうとて

仙化

長川の産山と海と

楊水

ふと色とまかば親善の赤衣

壬角

あひいら川流をかく此川傍に

栢凡

あけこに中しる松のふ海

使水

赤道の七層と輪る

不卜

連流くく川をさそふ

奉白

十月十日船別云

猿人と家名よき目ん初雲

芭蕉

又ましくん苑を宿くホー

由之

鶴鶴の公をよむ世のふのーまり

根と分るる山陰乃

しけりくせ生の家乃浅緑

新の年をほしまはるや

申の秋書二一つをかてるなり

舒るゆておくる漢舟

沖垣やひまじくさ波のひま

数ら然し進るるる喜

ほのふさげとよ道のまふ舟く

卯月の音は揺るつくハ祢

綱はる神つくもりり子津川

るる女里子祢とけり

舟のや晴んぬの筆人

昔筆とく句ひも却あひく

たもるぬくを祢か傀儡

途中よとる車の轡ををく

沖あく船のめされハ誰

善由ハ心をつく波をわづき

別々しとをかしき琴ののこ

水の家志らしき世の舟入

萱のゆけぬ乃を焼家

花の舟の繩あはれをちりけり

るる信され一詠の閑守

其角

松風

又禪

仙化

夢見

觀水

金峰

流名

帆筆

菖

由之

吉角

松風

又禪

仙化

金峰

流名

由之

帆筆

菖

由之

仙化

由之

菖

明るハテ浮のねをかき

奉白

命とたり一舟に這り

半角

起ちてよのほりらん海を

扇

志しぬ市寺と新す有ぬ

親水

蘇や名もむ坂の月おしほき

全奉

小畑をいし地景山仰ゆらん

松風

牝の戸乃るとほ債くおさくら

蘇

つららん早秋晴しおしわら

奉白

雲のきりり西白き夕涼

仙化

戦かきして氏の天王

舌角

御牧野の笛吹智ふ

全奉

えくらと久志の子昂

松凡

場の綿の蜀とた

鹿

伝家や宗大の友小文

親水

并ふ出た海苔をくら

蘇

笠海見日かこ

奉白

色きく水く

曲之

早湯の宮然尼よとや啼ふ鳥

芭蕉

船調ありき

安位

楓下不願のふりすく 葉
笠りて 阿久川 雲火の 影
初月 2 糸里の 娘の 影 通玉
為はまよひく 荊 神
朝露 小法師の まは 鶴の け角 なし
阿久川 阿久川 阿久川 阿久川
氏人の 店屋を 多き 花さし
加ふる 養老 木むきの 妻を ます
田と 又と ありに 山の 名を 伺て
まよひの 舟 小待と かしら

蕙 笑 足 蕙 辰 笑 言 風 信 執筆

京すてハすハ なる ちや 高の 雲
ふも 志も しく け 梅の 月
小待 女めと あり け 神ひ たり
酒 命さ ちと せん なる 風
引 控一 琵琶の 表と 芥 ち
僕 ちや おく け 牛 け ち
ふ ちや ちや 友 喃の 鴉 唱 け
明日の 命 乃 飯 け ち
わ ちや 舟 ちや け 山 け
鐘 いく ちや ちや ちや
ちや 別 の け ち

蕙 笑 足 蕙 辰 信 笑 蕙 足 蕙

脚籠うゝる津垣の梅

批筆

杜若のけしき及飛白のありひあり

芭蕉

麦穂あらしよるる海苔の末

知足

二つしてまきとるる鳥夕う水了

桐葉

かほさふ袖をりれし名不記

叩鐘

か別て月待おとのこゝへ

夢言

そ花とをしりの秋の月を

自云

花にて書き置る小耳あきき

如凡

及脚上のおとこ一唱あめ

芭蕉

か花とを何ふり秋のうづる水

芭蕉

か花とを何ふり秋のうづる水

芭蕉

か花とを何ふり秋のうづる水

芭蕉

表透り花露三つ四つ出ぬる

芭蕉

子成たりし秋の月さし

芭蕉

花れの秋さるる子成の悔し

芭蕉

秋あらしの猫音

芭蕉

冬辺野うるる女花ふて

芭蕉

神のりし秋の月さし

芭蕉

花の秋さるる子成の悔し

芭蕉

遠き山に背負ふさるる

芭蕉

天子さへ勅しおぼしめて書さし
五日の風乃さし五日のま
葉もあまも本からぬその位を
長屋の外も所々ちぢむ

信 凡 尖 只

冬月ノや落葉の比乃落葉
活士の薙と子折冬梅

如風 冬梅

葉の茂るも水ホト種と
葉の茂るも水種と

荷分

雪草や小穂のかけは 何乃儀
捉て賣りさす 大根
夜久ハコウ玉梅とかけ神て
門工虫おを月の笑 雪
雪竹も秋の日癖のさんさ
七十一ちとよらふ物扶持
三天通り表のさし 聖ヶ
涼一さい密田の出湯よく
蛭一牛の一方一耙一や一長一む一
墨海寺の男のさし入

草 野坡 全 草 全 坡 草 坡 草 坡 草 坡 草 坡 草 坡

水鏡帝と女のついでに佐屋河

苗の系と舟のあけ

胡凡とむふ今ねを吹く

道とのうちへきるよりの

さやき小晴の屋戸のあらの秋

扇のついでに標の乃多

耕化のふとよくしる初行

夏之層のちなき信濃海名

鹿島の原のともさきも補や

ふの海の日と去年のうら

地蔵のついでに川と境の長

切妻のついでにまじりて

お旗の文のついでに青月

くそまき言葉の行と初はけ

神のうらなう新繁の森

咲きついでに二徳とまは

寺のついでにいんげんけ

山鹿神の御持と足あ

舟の自由を半日

舟のついでに相する

かりかりの風と凌

三徳のついでにさき

三徳

嘉川

嘉鏡

嘉

川

鏡

嘉

川

鏡

嘉

川

鏡

嘉

川

鏡

嘉

川

鏡

嘉

川

鏡

嘉

新堂より秋風ぬくせそ 後松
ちいさな虫の鳴きよけ
高きとちりりと 池の細うて
山を かぬさる 下市乃里
茶斗のほいては 藤の真むら
四月の月をさす 神起 新
秋来ては 畑の古の神 只れそ
まを 雀の羽のまへ 柳の色
ほくくくと 足の中をさす 花の
ひくくく 山より 藤のまへ

正月の末より 船路の人 雇
又つら ちうれを 降る 女房
竹海を 利上ヶを くりと 玄定
まん 返と 今おハ 駒と 宗出
結梅を 看と けし 切入
足せ ぐり 奥ハ ぬか 初川 也
おとて 今年ハ 鳴き 色乃 乃
まき 道夫 ちうよ 吾妻の 道前
は 木石の ちあし 川を くりと 深江
おし ちう 来る くりと 物 しか
常志 一白 梅と 法支 度
雲の ちあし 陣 ころ し

陣 桑 蕉 冊 風 陣 桑 蕉 冊 風 陣 桑 蕉 冊 風 陣 桑 蕉 冊 風

今うの弓に志ろく 雨絶降可白
日用の丑忌と籠り 永也
庵後流 河原屋の 葉とさくわきと
小舟ととら比の 山吹
学 障 桑 凡

え祓七年六月十日
大津市本町店にて

秋あけに公の 春や 四喜半
志ろくくしあせり 松子共 春
木良

月あけ 形ありの 大影 赤消て
推定
交考

父合をくいて 障の 障
侍
考

名くして 咄のかき 喧嘩 州治
然 考

他壇の 障子と 月のさし かくり
然 考

探々 耳を おける 秋うせ
然 考

八穀の 礼を せし 仁とら
然 考

舟の 名の 輪乃 所なる ちり
然 考

西の 徳を 地早く 舟の 切る 不
然 考

お考し せし 醫者 志の 草屋
然 考

孫しけて 神繩さくわ 赤の垢
 是く 袷衣 ぬりて 千手 聖の功を
 幸乃乃さちいさげ やつた 徳まを
 徳長さくさく 跡をなきく 少
 行焼の上より 白蛇 寂滅
 五三十一 毘沙門と 何れなりと 至
 寺跡の四面より 水を 見る如く
 井の根と かく 水のさく
 志くくく 桑への 枇杷と 赤い
 嫁と むらさき 雲の 白く かく
 雲を 唇さむく て こそ 大徳の 旨
 赤く 花の 出づる 日の 照る 赤
 赤く 十たより 柿を かく 赤
 徳作の 中 綿仕 付けて 喰糸
 桶と たるいそ 巧く 木竹 輪
 投らちや たるいそ 猪の 趣り
 着て たるいそ 柿 珠の
 赤く たるいそ 箸の 白
 けく たるいそ 肥る 赤く 岸

赤 考 赤 考 赤 考 赤 考 赤 考 赤 考 赤 考 赤 考 赤 考 赤 考

ふ

あゝ葉の目よ立てんる葉とよ
あゝとあゝのそとほを胡と

次くく網乃斤力と折らるて

何みとせぬと年とそられ行

小女と母と産たの端を輝く

みやとととらひて玉くの核

あゝととと秤と紙とをきと

神あさくより祝の心代

恒物とちうんく盟の礼りあて

昔話のうらみ小なて火を焚

序らぬとまじまる妖のさよほ

たれくく月の出たる松の影

あつとひけと所者秋

それとぬと流と通る青筆

彼存のぬくさそてかすす

青芝ハ毎ととと川とあはの葉

出るととと時の一歩ととと

通つ紙を横とあゝねとまじ

志ととととととととととと

あさくくとととととととと

あゝのくくととととととと

あゝあゝの傍のまそととと

流とぬとととととととと

翁

子乃女

楓竹

渭川

支考

旌盆

西堂

金瓶

何中

意

竹

川

考

意

堂

翁

中

竹

川

堂

考

翁

上下の橋の落る川の中
うー田の舟と鶴の乃さつく
小う魚一石路とかけし
縁工仕おーのちやる常棧
月うちとてて師をのぬめさ
杖一むと乃のりささー
鴨鴨のちさあを徒のぬされそ
老のちささ小娘ほーか
餅ちさる鍋のぬさるの旅うさ
おたぬさるの積まかさなる
田のぬさるは遠くささる
柳のささるささるのぬさる

奇傳

法ふくく掃もさりく枝実成
竹のらつまを初阿ー吹
胡月小鶴さる尾とありて
まれむさるはと夏座香地
大八の通りかぬる狭小海
隙をのぬさ編笠とさる
疲ささるぬさる川ありそ
舟中不斗と網ふささる

中島 女堂 竹中 川島 考 廿 妻 心 惟 慈 古 芳 高 芝 猿 籠 翁 早 帝 丸 衣

嫁入の来て旅する門まりり

杖と茶履を脱りて

うすい字又きる目取新

鏡のあり程念の浦

大急のりりりて田母と知りと

香麦粉とち居小帷子の裾

まひろみ書て置くんせの沼

鏡持もあて北母のほろ

まんねい算のた陰のうま

とこやうま北のま月

旅の筆屋に書茶うりし此之替

あしおのつる地と云ふ

を枯の九年母とむるや

なましくとれと水用と漏

持持の一日取とてし

あはくはくと皆つり

舌の口入みとれと通奥市

茶の呑ころのぬき小葉籠

百阿見ん又とととととと

とりに年とととととと

者明と志とととととと

あかしく水とととととと

引立て留書とととととと

とととととととととと

うら

芝

嬰

然

雅

翁

帝

雅

翁

芳

親

之

是

之

葉

葉

然

雅

翁

帝

翁

芳

芝

ゆるゆるとささるる貝のか
いくつくさりのほく相見
はしくとまの……大……
柳………古の……松
袋 嬰 然 雅

元禄七年

歌仙
ゆるゆるとささるる貝のか
ゆるゆるとささるる貝のか
ゆるゆるとささるる貝のか

夕月のひらき
夕月のひらき
夕月のひらき

あちちとあちち
あちちとあちち
あちちとあちち

焼きと月利のちりつ
焼きと月利のちりつ
焼きと月利のちりつ

大木の梢を變のちりつ
大木の梢を變のちりつ
大木の梢を變のちりつ

山外はほいさつ
山外はほいさつ
山外はほいさつ

掛物の布代
掛物の布代
掛物の布代

秋風の五あちちと川の上
秋風の五あちちと川の上
秋風の五あちちと川の上

かちさつ舟と
かちさつ舟と
かちさつ舟と

○ 芳 彦 定 虎 藤 若 麦 定 蘇 芳 麦 芳 彦 定 虎 藤 若 麦 定 蘇 芳

若松山はのこしに葉の葉掛い
 さてそとるあしきの羽衣
 鹿

水木目のあしきをきりぬ
 馬のふたぎ
 鹿

のこしぬやよまかきぬあそび
 針葉くしけし松ふねをきり
 鹿

空竹の杖のふしむる老の口
 志しぬ山後を馬のふたぎ
 鹿

筆ふしきと見しぬ筆
 志しぬのふけしきりぬ
 鹿

志しぬのふけしきりぬ
 志しぬのふけしきりぬ
 鹿

志しぬのふけしきりぬ
 志しぬのふけしきりぬ
 鹿

他道之連歌

志しぬ今此や北平の星の星
 百歳子

菊の香さしぬあつきの櫻
 武之

一はしぬ勢のまきぬまきぬ
 芭蕉

まきぬまきぬ田舎道
 養牛

盆の名を何れぬ月
 村敵

猿押はしぬ虎のこころよ
 掲市

新屋の簾の中の大弓の

あゝの小福をとちりし

花灯状を好まるといふ

紙子お戯りまこといふ

浦くそんまぢり人へみ書て

古交必深の家かーいり

力明の的をく彫り似て

こはけりきり山乃秋

手習のまねを破るうせり

瓶子よりいふ物にきり

杖はきまの田りか

まのまて猪い小文を

西新しおきき

夜急の物り

まろくと子敷の音乃

物りまろく

はるまの市のけり

明日の清湯の月を

稲妻し無らき

まろけり

子としら

ちまの

株札

梅歌

芭蕉

後牛

或之

百

歌

市

村

蕉

之

家

百

共

歌

牛

之

村

市

之

村

百

之

之

かりきり下知の志はしとわさる
 幕は志はまはるる
 鶴のくまは苑のをさるる
 知く川流しとさる
 初まの射場や阿らんと捉て
 能くはさるる
 梅
 を
 之
 市
 百
 村

色蘆花附合集終

一 追加 なるが

一 色蘆花附合集 出



